

超高齢化社会と言われて久しい日本ですが、現在も男女の平均寿命は延び続け、まだまだ高齢化社会は進み続けるでしょう。私の両親もそろって80歳を過ぎ、幸い今のところ健康状態に問題はないのですが、最近、頻繁に歯の不調を訴えるようになってきました。先日父が「急に歯が全部グラグラしてきて、何も噛めない」といつてきたかと思えば、母も「奥歯の調子が悪くて、硬いものを噛むと動くようになってきた」などと、突然診療室にやってきました。2人とも、歯周病の悪化による症状で、現在は治療によって改善していますが、自分の両親だからいつ飛び込んで

きてもすぐに対応することができません。しかし、他の高齢者の方はどうでしょうか？ 歯が悪くなっても、自力で通院することができずに我慢している、あるいは、認知症の人などは悪くなってきていることさえ気が付かない、そういった患者さんが増えているように思います。

私が開業した30年前は、高齢者の歯の治療といえば、ほとんどが義歯、それも、総義歯かそれに近い多数歯欠損の義歯に関係した治療ばかりでした。しかし、現在は歯周病と他の全身的な疾患や認知症などとの関係が次々に解明され、より長く健康寿命を維持するためには、歯科治療と口腔ケアは不可欠との認識が定着してきました。

歯科治療の進歩や医科歯科連携の推進とともに、市町村単位、あるいは職場単位の各種の歯科検診事業が実施され、80歳以上の高齢者でも多くの残存歯を維持している人が多くなりました。しかしながら、その一方で歯が悪くなっても十分な歯科治療を受けることができない高齢者が増えていることも見逃せない事実です。特に、高齢者施設に入所し

ている方の場合は、ほぼ全ての日常生活において介護を必要とするため、口腔ケアもほとんどが介護者に依存せざるを得ない状態になっています。しかし、介護者も高齢者の日常生活の世話と全身疾患の管理で手一杯となり、なかなか口腔ケアまで気遣う余裕がないのが現状ではないでしょうか。

そこで、ぜひとも考えてほしいのが高齢者の歯科検診制度です。小中学校においては、学校歯科医によって年1回の歯科検診が実施され、歯科疾患が見つければすぐに歯科治療をするように保護者に通知が行くこ

とになっています。これと同様に、すでに全国で1万を超えている高齢者施設においても、認定された高齢者歯科医（仮称）による歯科検診制度を法令化し、年1回の高齢者歯科検診を施設ごとに実施して、問題のある入所者には適切な口腔ケアが受けられるような制

度を確立します。それから、もし各種の歯科治療が必要になった場合には、各施設ごとに近隣の数か所の歯科医院と提携し、その中から入所者と家族の意思によって主治医を選択してもらい、医師やケアマネジャーと連携しながら必要な治療計画を立案したうえで治療に当たるようにします。当然、高齢者歯科医（仮称）のほうも、高齢者歯科治療に関する定期講習を義務付け、産業歯科医のような認定医制度を作る必要があります。

まだまだ細かいことをいえばきりがありませんが、今後さらに厳しさを増す高齢化社会の将来を考えるならば、できるだけ早期に、官民一体となって、高齢者歯科検診制度の確立をめざすことを提案します。

論壇

高齢者歯科検診制度の確立を

茨城県保険医協会理事 久松 雅彦